

■ 鶴沢総明 民間からは稀有の法学博士号を受け、政界でも重きをなし、極東軍事裁判日本側弁護士団長をつとめた。

うざわふさあき

学問のすすめ1872= 木更津県長柄郡上大田村(千葉県茂原市)に誕生。

明治6年政変 1873= 1歳 :

明治14年政変1881= 9歳 :

帝国憲法発布1889=17歳 :

帝国議会始・1890=18歳 :

一高を経て、

日清戦争始・1894=22歳 :

Bushidou・・1899=27歳 : \*東京帝大法科大学を卒業、ただちに生涯の業としての弁護士を開業。

花井卓蔵と併称される手腕を発揮し、

田中正造直訴1901=29歳 : 明治法律学校(現明治大学)講師となり、没年まで法律哲学・東洋政治哲学などを講じる。

主たる学問分野は法律哲学で、中国古典哲学の造詣のうえに、独得の体系を構築し、

日露戦争始・1904=32歳 : 「法学通論」、

日露戦争終・1905=33歳 : 「法律と道德との関係」によって、

アソキ創刊・1908=36歳 : \*法学博士の学位を受け、民間学者としては稀有の例と評される。衆議院議員に当選し、

伊藤博文暗殺1909=37歳 : 花井卓蔵とともに雑誌「刑事法評林」を刊行して人権擁護の論陣を張り、

第10回より第14回まで補選をあわせて6回連続して議席にあり、政友会に属し、原敬に重用され、

明治天皇没・1912=40歳 :

大正政変・・1913=41歳 : 雑誌{国家及国家学}を主宰して、民本主義運動の一翼を形成。

民本主義・・1916=44歳 : 「俗傲論集」に最盛期の論策がまとめられている。

ロシア革命・1917=45歳 : 第38議会では院内総務となり、第42・第43両議会にも再選される。

本格政党内閣1918=46歳 : 協議員長、

大暴落・・・1920=48歳 : 総務委員の要職にあり、\*党の領袖の1人となり、

原敬首相暗殺1921=49歳 :

水平社結成・1922=50歳 : 退任後も、顧問として大臣歴任者なみの待遇を受け、

円本時代始・1926=54歳 :

共産党事件・1928=56歳 : 田中政友会内閣の推薦で貴族院議員に勅選されたが、

満州事変・・1931=59歳 :

帝人疑獄事件1934=62歳 : 明大総長となると(以後4度改選)、

芥川直木賞始1935=63歳 : 「老子の研究」。政友会を離れ、永田鉄山暗殺事件の弁護にあたり、

日中戦争始・1937=65歳 : 「政治哲学」。\*貴族院を辞し、政界を去り、

大政翼賛会・1940=68歳 : 大東文化学院総長にもなった。

日米開戦・・1941=69歳 :

年金+総武装 1944=72歳 :

敗戦・・・1945=73歳 : 敗戦後は、

新憲法公布・1946=74歳 : 極東軍事裁判日本側弁護士団長となり、

国際基督教大学評議員会議長をもつとめた。

独立回復・・1951=79歳 :

TV放送始・・1953=81歳 :

自衛隊発足・1954=82歳 : 「法律哲学」がある。

55年体制始・1955=83歳 : 没した。

平凡社百科事典、